



豊田自動織機レポート
Toyota Industries Report

2012

事業の取り組み

産業車両 ————— P **26-31**

自動車 ————— P **32-36**
車両／エンジン／カーエアコン用コンプレッサー／カーエレクトロニクス

物 流 ————— P **37-38**

繊維機械 ————— P **39-40**

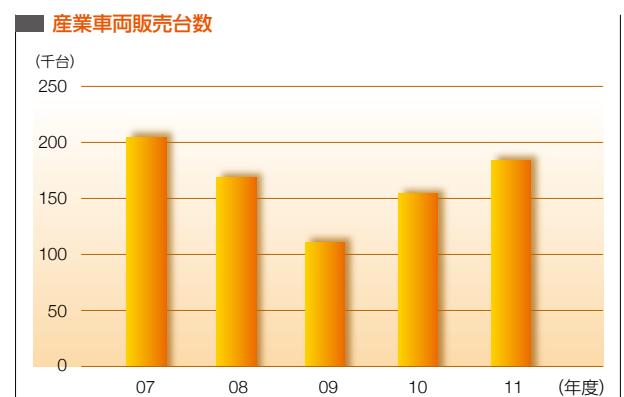
世界に認められたフォークリフトのトップブランドとして、
業界のリーディングカンパニーにふさわしい先進の商品とサービスを、
世界のお客様のもとにお届けしています。



2011年度の事業の概況

産業車両におきましては、アジアを中心とする新興国市場をはじめ、欧州、北米、日本の各市場で、総じて回復が続きました。そのなかで、各市場の状況に応じた、生産・販売体制の強化や商品投入を行い、主力のフォークリフトが国内・海外ともに増加したことにより、販売台数は前期を3.1万台(20%)上回る18.4万台となりました。

売上高は、前期を801億円(16%)上回る5,707億円となりました。



トヨタ マテリアル ハンドリング グループ (TMHG)

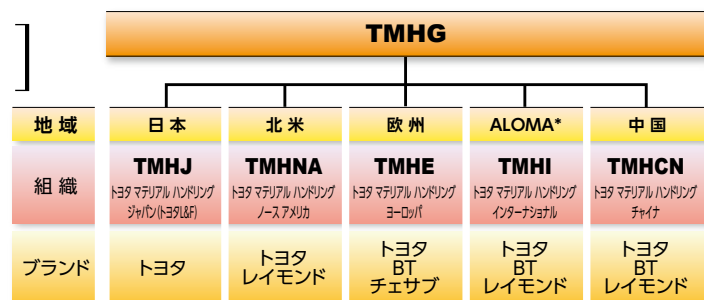
当社は、世界中の物流現場のニーズを知り尽くした業界のリーディングカンパニーとして、フォークリフトを中心とした産業車両を世界中のお客様にお届けしています。

TMHGの組織のもと、トヨタ、BT、レイモンド、チェサブの各ブランドで事業展開し、各ブランドが販売面および開発面で持つ強みを相互に活用して、グローバルに事業拡大をはかっています。

2011年の市況と事業活動

2011年のフォークリフト市場は、先進国市場の回復と新興国市場の伸張により、各市場が好調に推移しました。そのなかで当社は、国内では、東日本大震災の影響により一時的に稼働停止を余儀なくされましたが、独自のサプライチェーンを活かした機動的な対応により、早期に挽回生産を実現させるとともに、設備投資が回復する製造業への拡販などに努めました。欧州・北米では、大口・広域商談への対応を強化するとともに、展示会への出展などを通して商品・サービス力をアピールしました。新興国について、インドでは新設した販売店を通じて拡販に力を注ぎ、ブラジルではフォークリフトの生産工場の新設を決定するなど、製販

トヨタ マテリアル ハンドリング グループ組織図



*：アジア、中南米、オセアニア、中東、アフリカの地域を指すための当社の呼称。
Asia, Latin America, Oceania, Middle East, Africaの略。

両面で強化をはかっています。

自動倉庫や無人搬送車などに代表される物流エンジニアリング事業においては、中国をはじめとする海外市場の開拓に努めています。

高所作業車において国内トップブランドである(株)アイチコーポレーションは、震災や欧州経済の減速などの影響により、市場は厳しい状況で推移するなか、拡販とコスト削減に力を注ぎ、前期を上回る売上高を確保しました。

日本市場での展開

販売シェアNo.1*の実績

2011年の日本のフォークリフト市場は、震災による影響を受けましたが、その後の回復により前年比約10%の伸びを示しました。そのなかで、トヨタL&F/トヨタ マテリアル ハンドリング ジャパン(TMHJ)は、震災の影響による稼働停止を早期に復旧させ、挽回生産を行うとともに、市場の回復に対応して輸送用機器をはじめとする製造業への積極的な拡販を進めました。その結果、2011年度の販売台数は前年度比21%増の3.2万台となり、2011年の国内販売台数シェアは、46年連続でNo.1*となる42.7%を達成することができました。

*：2011年(社)日本産業車両協会および自社調べ

環境性能、作業効率に優れた商品を投入

トヨタL&Fは、3.5トン～4.5トン積ディーゼルエンジンハイブリッドフォークリフト「ジェネオ ハイブリッド」用のアタッチメントオプション4種類を追加設定しました。これにより、紙・パルプ業や木材業などをはじめとするさまざまな業種や、お客様の幅広いニーズに対応できるようになりました。



ジェネオ ハイブリッド
追加アタッチメント

また、トヨタL&Fの全国販売店では、プラグインハイブリッド車や電気自動車用充電スタンドの取り扱いを開始しました。電動フォークリフトで培ったサービス力を活かし、自動車の電動化の分野においても、メンテナンスなどのニーズに対応しています。

お客様へ省エネと物流効率化をアピール

トヨタL&Fは、「倉庫は改善の宝庫だ」をテーマに、省エネや物流現場の効率化を、お客様に提案してきました。2011年7月にはエコ・ラインナップキャンペーンを展開し、環境にやさしい電動およびハイブリッドフォークリフトの拡販を進めました。

また11月からは、これまでトヨタL&Fが提案してきた改善事例を新聞広告などに掲載し、全国で物流無料診断を実施することでお客様ニーズの掘り起こしに力を注ぎました。

トヨタL&Fはフォークリフトから物流機器までの幅広い商品ラインナップと豊富な物流改善ノウハウ、充実したサービス体制で、お客様に最適な物流ソリューションを提供していきます。

食品業を営むお客様での改善事例

当社の自動倉庫システムの活用により、60～90kgある樽の出し入れ作業の負担が大幅に軽減しました。また、倉庫の立体的な活用により樽の保管量が1.5倍に増加したほか、フォークリフトによる作業所内の樽の移動がスムーズになりました。

新聞広告の事例



Topic | トピック

当社は、2012年2月に西部電機株式会社(福岡県古賀市)と業務・資本提携契約を締結しました。

当社が販売する自動倉庫や搬送機器など物流システム機器の強化をねらいに、カスタマイズ設計・生産の一部を西部電機に委託します。今後、当社は従来の物流機器におけるハード中心の業務に対し、ソフトウェア領域の強化をはかっていきます。

■ 北米市場での展開

10年連続で販売台数シェアNo.1*1を達成

2011年の北米におけるフォークリフト市場は、前年比30%以上の伸びを示しました。こうしたなか、トヨタ マテリアル ハンドリング ノース アメリカ (TMHNA) の2011年度の販売台数は、トヨタとレイモンドの両ブランドを合わせ、前年度比37%増の5.9万台となり、北米販売台数シェアでトップ*1を維持しました。

フォークリフトのフルラインナップサプライヤーであるトヨタブランドは、10年連続で北米販売台数ブランド別シェアNo.1*1を獲得しました。倉庫や物流業などに最適なウェアハウス用機器に強みを持つレイモンドブランドは、優れた環境性能で、倉庫などの効率的かつクリーンな運営に貢献しています。

*1：2011年 Crist Information & Research, LLC調べ

新商品・サービスを積極的に投入

トヨタブランドは、8シリーズ4輪電動フォークリフトに、小型バッテリー搭載タイプをオプション追加しました。このオプションは、倉庫など狭い場所での作業を必要とするお客様のニーズにお応えしています。



トヨタ8シリーズ4輪電動フォークリフト

レイモンドブランドは、業界最速のフォーク昇降速度を誇る新型7000シリーズリーチタイプフォークリフトを投入しました。このモデルでは、スピーディなフォーク昇降により



レイモンド7000シリーズリーチタイプフォークリフト

作業効率の向上をはかるとともに、フォーク下降時に回生装置により充電を行うことで、フォークリフトの稼動時間延長に貢献しています。また、新開発の無人フォークリフト「クワリエ」は、視覚誘導技術の活用により、導入時にレーザー、磁気誘導テープ、ワイヤーなどの設置が不要となりました。これにより、さまざまな場面でフレキシブルに無人フォークリフトをお使いいただくことができるようになりました。

高い評価を得る トヨタ、レイモンド両ブランド

TMHNAでは、お客様のさまざまなニーズにお応えし、効率的な物流現場の構築に役立つ商品・サービスの開発・提供に努めています。

こうした取り組みが評価され、トヨタブランドの8シリーズ4輪電動フォークリフトが、Plant Engineering誌により物流機器部門の2011年最優秀商品賞に選ばれ、レイモンドブランドの9300/9400サイドローダーは優秀商品賞に選ばれています。

さらに、フォークリフトユーザーの意識調査では、トヨタブランドのフォークリフトが、安全性や信頼性で最も優れている*2との評価を得ました。補給部品においても、トヨタブランドの純正部品は、3年連続で、最も品質および信頼性で優れている*2と評価されました。

*2：2011年 Peerless Media Research Group調べ

お客様第一のサービス提供と 業界No.1の商品づくりをめざす

北米の2012年のフォークリフト市場は、前年に比べ伸びが鈍化すると予測しています。TMHNAは、トヨタ・レイモンド両ブランドを活用し、最大限の力が発揮できるよう、シナジーをさらに高めていきます。TMHNAは、お客様目線でのサービス提供と業界No.1の商品づくりを通じて、お客様の効率性と生産性の向上、コスト削減に力を入れていきます。

Topic トピック

北米におけるトヨタブランドの産業車両の生産会社であるトヨタ インダストリアル イクイップメント マニュファクチャリング(株) (TIEM) は、2011年に累計生産台数40万台を達成しました。TIEMは、IndustryWeek Magazine により2011年北米優秀工場10拠点の一つに選出されたほか、コロンバス商工会議所から年間最優秀企業に選出されました。また、同業他社と比較して休業災害発生率が半分以下であることが認められて、全米安全性評議会から「労働安全衛生優秀賞」を受賞したほか、インディアナ州知事からは環境優秀賞を受賞しました。



レイモンドブランドは、2012年2月にジョージア州アトランタで開催された、MODEX 2012展示会に出展しました。MODEXでは、省エネなどに加え、効率的な物流の提案力を来場者にアピールしました。



MODEX 2012展示会

■ 欧州市場での展開

市場動向を的確に捉え、販売台数を拡大

2011年の欧州のフォークリフト市場は、下期は伸びが鈍化したものの、年間としては回復基調を示し、前年比で20%以上増加しました。

こうしたなか、トヨタ マテリアル ハンドリング ヨーロッパ (TMHE) では、展示会への出展などを通じて、物流ソリューションの提案による需要の掘り起こしや幅広い商品・サービスの紹介などに努めました。こうした積極的な拡販活動の結果、TMHEの販売台数は、前年度比21%増の6.0万台となりました。

新商品の投入などによる拡販活動

TMHEは、新「滑らか操作」をコンセプトに、人間工学に基づいて設計した新型「BT Optio L シリーズ」オーダーピッカーを投入しました。このモデルは、カーブ走行時などに自動的に運転速度を調節する機能や、運転席での床下からの振動を緩和し、スムーズな乗り心地を実現するサスペンション機構など最新機能も備えており、性能、機能、スタイリングなどが高く評価され、iFデザイン賞*の金賞を獲得しました。

TMHEは、物流ソリューション分野にも力を入れており、これまでの拡販活動の結果、2011年度には多くのお客様を新規開拓しました。物流の無人化などさまざまなソリューションの提案により、物流コスト削減や安全性の向上に貢献しています。

*：ドイツの社団法人国際デザインフォーラムが、1954年より毎年開催している、世界的に権威のある工業デザイン賞。



BT Optio L シリーズオーダーピッカー

【展示会で商品とサービスの品質をアピール】

TMHEは2011年5月に、ドイツのハノーバーで開催された世界最大級の物流機器見本市であるCeMATに出展しました。「Responsible Together(ともに歩む)」をテーマに、「技術革新」「安全道場」「事業支援」の3点をサブテーマとして設定し、幅広い商品とサービスを紹介しました。ジェネオハイブリッドや無人オーダーピッキングなどの実演を通して、商品をアピールしたほか、物流ソリューションについてのデモ機を展示し、コスト削減のしくみなどを紹介しました。



CeMATでのTMHEブース

CeMATではチェサブブランドもブースを設け、マストの操作性の向上と優れた安全性の確保をはかったカウンタータイプフォークリフトおよびウェアハウス用機器の最新モデルを出展し、来場者にアピールしました。



CeMATでのチェサブブース

また、同年10月にドイツのミュンヘンで開催された欧州空港展には、航空貨物の牽引車として世界各地の空港で導入実績のあるトヨタトーイングトラクターを出展しました。



トヨタトーイングトラクター

【物流コストのさらなる低減と、より良い物流環境の構築に貢献】

TMHEは今後も、豊富なラインナップの商品に加え、最先端の無人化技術や大口のお客様用の機台管理システムトヨタL_Siteをはじめとする革新的なソリューション、高品質なサービスを欧州全域で提供し、お客様の物流コスト低減に貢献していきます。また、2012年度も引き続き、EU-OSHA(欧州連合労働安全衛生局)が、「全員参加で未然防止」をテーマに展開する労働安全啓発活動に参画し、役員から現場スタッフまで一丸となって職場の安全確保に努めるなど、お客様やサプライヤーをはじめとする関係者とともに、より良い物流環境の構築に努めていきます。

■ ALOMA*・中国市場での展開

【販売・サービスの機能を一層強化】

トヨタ マテリアル ハンドリング インターナショナル(TMHI)は、アジア、中南米、オセアニア、中東、アフリカなどのALOMA*市場で、また、トヨタ マテリアル ハンドリング チャイナ(TMHCN)は中国市場で、それぞれ事業を展開しています。

2011年のTMHIおよびTMHCNが事業展開する市場は、好調な経済に支えられ、フォークリフトの需要は堅調に推移しました。こうしたなか、TMHIおよびTMHCNは販売

*：アジア、中南米、オセアニア、中東、アフリカの地域を指すための当社の呼称。
Asia, Latin America, Oceania, Middle East, Africaの略。

およびサービスの一層の強化に取り組んだものの、中国などで販売が減少し、2011年度の販売台数は、前年度比3%減の3.3万台となりました。

【拡大する市場で生産・販売を強化】

拡大を続けるインド市場に確実に対応するため、2011年5月にトヨタ マテリアル ハンドリング インディア(株)(TMH India)の営業を開始しました。TMH Indiaは、商品ラインナップの充実とインド全土への販売・サービスネットワーク拡充に努めていきます。

中南米における産業車両の最大市場であるブラジルでは、既存の販売活動の強化に加え、サンパウロ州での新たな生産工場の建設を決定しました。新工場では、2013年10月に、市場ニーズが最も高いエンジンフォークリフトの生産を開始し、順次生産品目の拡大を計画しています。

また、ベトナムのトヨタ インダストリアル イクイップメント ベトナム(株)(TIEV)では、2012年4月より電動フォークリフト用モーターを生産開始し、世界のフォークリフト組立工場に供給することで、価格競争力を強化しています。



トヨタ インダストリアル イクイップメント ベトナム

中国では、豊田工業(昆山)有限公司(TIK)で、グローバルモデルである新型8FBN電動フォークリフトの生産を開始しました。このモデルは、2011年6月に中国市場での販売を開始し、2012年2月からはALOMA市場へも投入しています。さらに、広東省佛山市にBTブランドのローリフト、遼寧省大連市にレイモンドブランドの小型牽引車の生産工場をそれぞれ設立しました。また、販売面では、既存ディストリビューターの機能強化に加え、合併販売会社を設立し、2011年9月に営業を開始するなど、主要都市における販売・サービス網の一層の強化をはかりました。



トヨタ8FBN電動フォークリフト

【各地域のニーズを捉えた商品の提供と最適な供給体制の構築】

2012年のALOMAおよび中国のフォークリフト市場は、引き続き拡大していくと考えられます。こうしたなか、TMHIおよびTMHCNでは、地域ごとのニーズに合ったフォークリフトおよびサービスの提供と、最適な供給体制の構築により、お客様のご期待にお応えしていきます。

Topic | トピック

TMHIは2011年11月に、第2回TMHIディストリビューター会議を開催しました。会議には、ALOMA地域35カ国から、トヨタ・BT・レイモンド各ブランドの42社、約70名の代表者が参加し、TMHIの中期目標とその達成に向けた活動計画を共有しました。また、各ブランドのフォークリフトやウェアハウス用機器、トーイングトラクターなどの商品知識向上に努めたほか、トヨタL&F販売店を訪問し、販売管理やサービス拠点運営についての事例を学びました。



TMHIディストリビューター会議

車両組み立て、エンジン、カーエアコン用コンプレッサー、
カーエレクトロニクス分野で、省エネ、電動化、軽量化などの環境技術を駆使し、
環境にやさしく快適なクルマづくりに貢献しています。



車 両

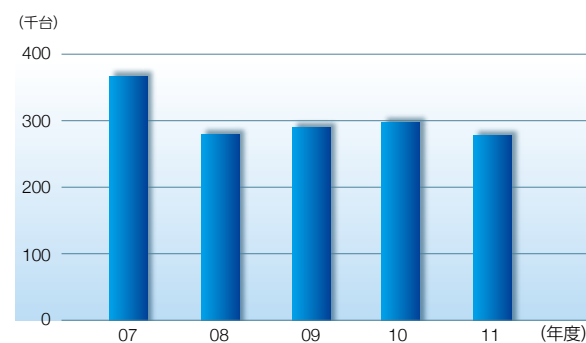
2011年度の事業の概況

自動車におきましては、国内市場が落ち込んだものの、アジア市場の成長や北米市場の回復により、世界市場は拡大しました。こうしたなかで、震災やタイの洪水の影響がありましたが、生産活動の維持・挽回に努めました。

車両につきましては、RAV4・ヴィッツが減少したことにより、生産台数は前期を1.7万台(6%)下回る27.8万台となりました。

売上高は、前期を211億円(6%)下回る3,544億円となりました。

■ 車両生産台数



樹脂ウインドウをトヨタプリウスαに搭載

トヨタ自動車(株)が2011年5月に発売したハイブリッド

専用モデル「プリウスα」向けに、当社は樹脂パノラマルーフの生産を開始しました。自動車の軽量化ニーズが高まっているなかで、当社は従来のガラスウインドウに代わる軽量新素材として樹脂ウインドウの開発を行ってきました。

この樹脂パノラマルーフは、ガラス製ルーフの特長である美しい表面品質を維持しつつ、ガラス製ルーフと比べ約40%*の軽量化を実現しており、車両の燃費向上によるCO₂排出量削減に貢献しています。現在、国内外の多くの自動車メーカーから引き合いがあり、今後も、樹脂ウインドウの特性を活かした魅力ある新商品の開発を行っていきます。

*：自社調べ



より魅力あるヴィッツをつくるための取り組み

これまでヴィッツの国内生産は、当社とトヨタ自動車との併産となっていました。2010年3月からは当社での単独生産となりました。また、アッパーボディの一部と内装の設計、スポーツグレード「RS」のデザインも当社が行うなど、開発から生産まで一貫して担当しています。ヴィッツを末永く

売れ続けるクルマに育てるため、「自分たちのクルマを自分たちの力でもっと魅力的に」を合言葉に、トヨタ自動車と連携しながら、新仕様のクルマや用品などの提案を行っています。また、モータースポーツの支援を通じたヴィッツのイメージアップによりお客様の層を広げる活動も行っています。

トックラスのQCDで 魅力あるトヨタ車の生産に貢献

国内の自動車市場が縮小傾向にあるなか、QCD(Quality:品質、Cost:コスト、Delivery:納期)での優位性をさらに強化するとともに、短期間での生産立ち上げや生産量・車種ともにフレキシブルな生産体制を活かして、国内でのトヨタ車生産に貢献していきます。

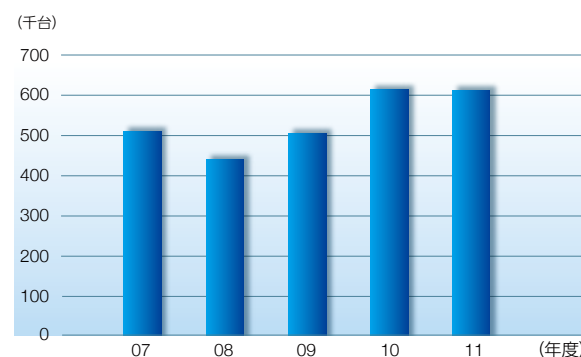
エンジン

2011年度の事業の概況

エンジンにつきましては、主にKD型ディーゼルエンジンが増加したものの、AR型ガソリンエンジンが減少したことにより、生産台数は前期並みの61.0万台となりました。

売上高も前期並みの1,971億円となりました。

■ エンジン生産台数



当社製ディーゼルエンジンに 世界各地のお客様から高い評価

当社が生産するディーゼルエンジンは、世界各地で販売されているトヨタ車に搭載されており、クリーン、低燃費、高性能などの理由から、お客様の高い評価をいただいています。2005年に生産開始したKD型ディーゼルエンジンは、トヨタIMV(新興国向け戦略車)に搭載され、アジア、中南米などを中心に販売を伸ばしています。また、豪州、ロシア、

中東などで販売好調なランドクルーザーには、当社主体で開発したV型8気筒のVD型ディーゼルエンジンが搭載され、欧州向けのRAV4やレクサスISには、2008年に欧州排ガス規制(ユーロ5)に対応したAD型ディーゼルエンジンが搭載されています。

2011年には、KD型ディーゼルエンジンおよびVD型ディーゼルエンジンのユーロ5対応、AD型ディーゼルエンジンの低燃費化対応を実施しました。



KD型ディーゼルエンジン

自動車以外の用途でも競争力のある エンジンを開発

当社製エンジンは、自動車以外の分野でも、環境性能などが高く評価されています。

ディーゼルエンジンハイブリッドフォークリフト「ジェネオハイブリッド」をはじめとした当社製フォークリフトや、国内GHP*1メーカー、海外CHP*2メーカーの商品などにも搭載され、幅広いお客様にお使いいただいています。

*1：Gas Heat Pumpの略。ガスエンジンで駆動させるエアコン。

*2：Combined Heat & Powerの略。コージェネレーションシステム。

これからも、より多くのお客様に ご満足いただくために

当社では、開発の効率化・短期化を実現するための取り組みを進めるとともに、ユーロ6など厳しい排ガス規制に対応した自動車用次世代エンジンや、低燃費で低価格の産業車両用・汎用エンジンの開発を行っています。

また、汎用エンジンにおいては新規のお客様に販売するために、海外展示会へ出展しているほか、今後は、市場に応じた最適な販売・サービス体制を構築することで、新興国を中心に拡販の取り組みを進めていきます。

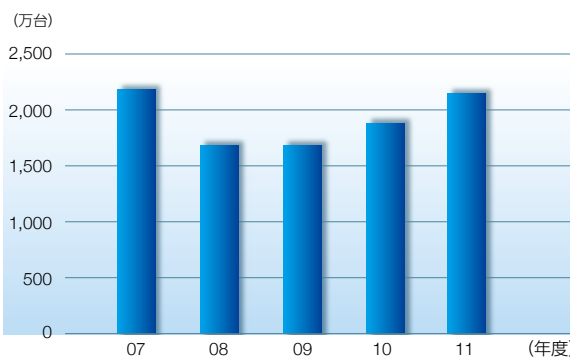
カーエアコン用コンプレッサー

2011年度の事業の概況

カーエアコン用コンプレッサーにつきましては、国内・海外ともに増加し、販売台数は、前期を272万台(14%)上回る2,155万台となりました。

売上高は、前期を147億円(8%)上回る2,065億円となりました。

コンプレッサー販売台数



豊富なラインナップにおける商品力を一層強化

当社は、お客様の幅広いニーズに応えるために、小型車用のベーン式をはじめ、中・大型車用の固定容量タイプから、可変容量タイプ、電動タイプまで、すべての商品ラインナップを揃えてきました。

先進国から新興国まで、地域ごとの多様なニーズに的確に対応することが可能であり、今後も豊富なラインナップに

おいて、商品力を一層強化していきます。

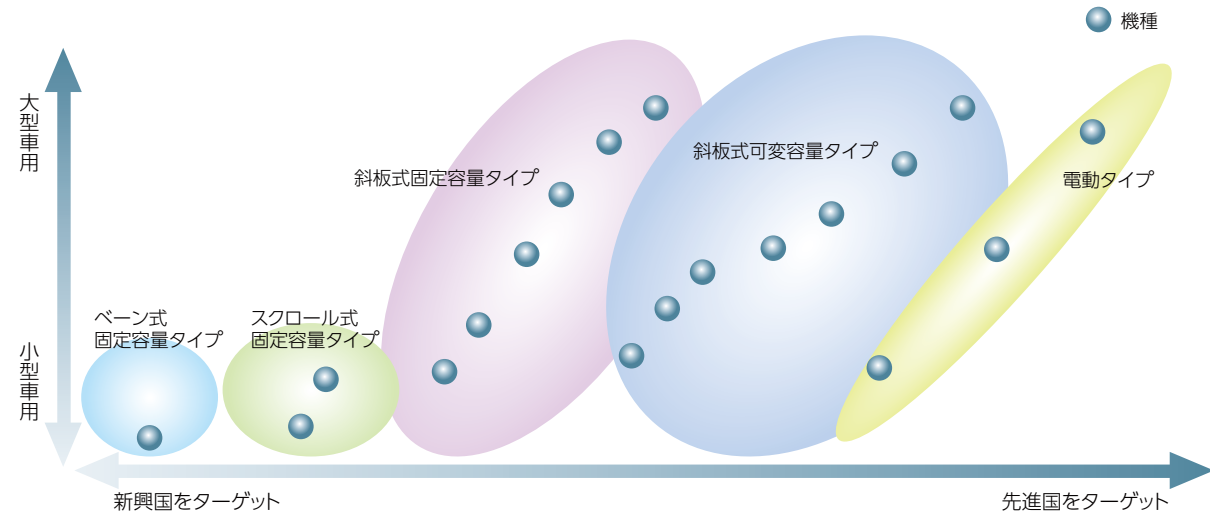
先進国向けの商品では、可変容量タイプでの省燃費ニーズへの対応や、電動タイプでの小型化・軽量化・静粛性をさらに向上させるための開発などを進めています。

このうち電動タイプは、2代目トヨタプリウスへ搭載されて以来、現在では3代目プリウスからアクアに至るまで、すべてのトヨタ自動車(株)のハイブリッド車(HV)に搭載されています。こうした実績と商品力を強みに、トヨタ以外の自動車メーカーのHVやプラグインハイブリッド車、さらには電気自動車への引き合いも拡大しています。

一方、新興国向けの商品では、固定容量タイプにおける信頼性の一層の向上および価格競争力の強化に加え、需要が伸びつつある可変容量タイプでの機能とコストの最適化をはかっていきます。新興国では、商品力に加え、自動車メーカーが必要としている技術サポート力を活かし、これまで当社の販売台数が少なかった新興国のボリュームゾーンでのシェアアップをはかっていきます。



商品ラインナップのイメージ



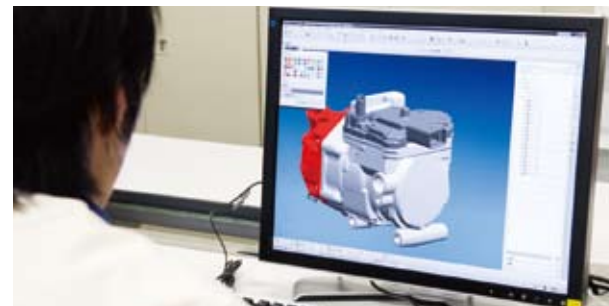
グローバルでの生産・調達体制をさらに強化

生産面については、先進国では、省燃費ニーズが一層高まるなか、当社は北米、欧州において、可変容量タイプでの生産を強化しています。また、日本では、電動タイプの生産能力増強などを行っています。

新興国では、成長するアセアン自動車市場に対応するため、2011年6月に生産開始したインドネシアのティーディーオートモーティブコンプレッサーインドネシア(株)(TACI)の生産能力をさらに増強していきます。



TACIで生産している10SA13コンプレッサー(固定容量タイプ)
トヨタIMVやエディオスに搭載

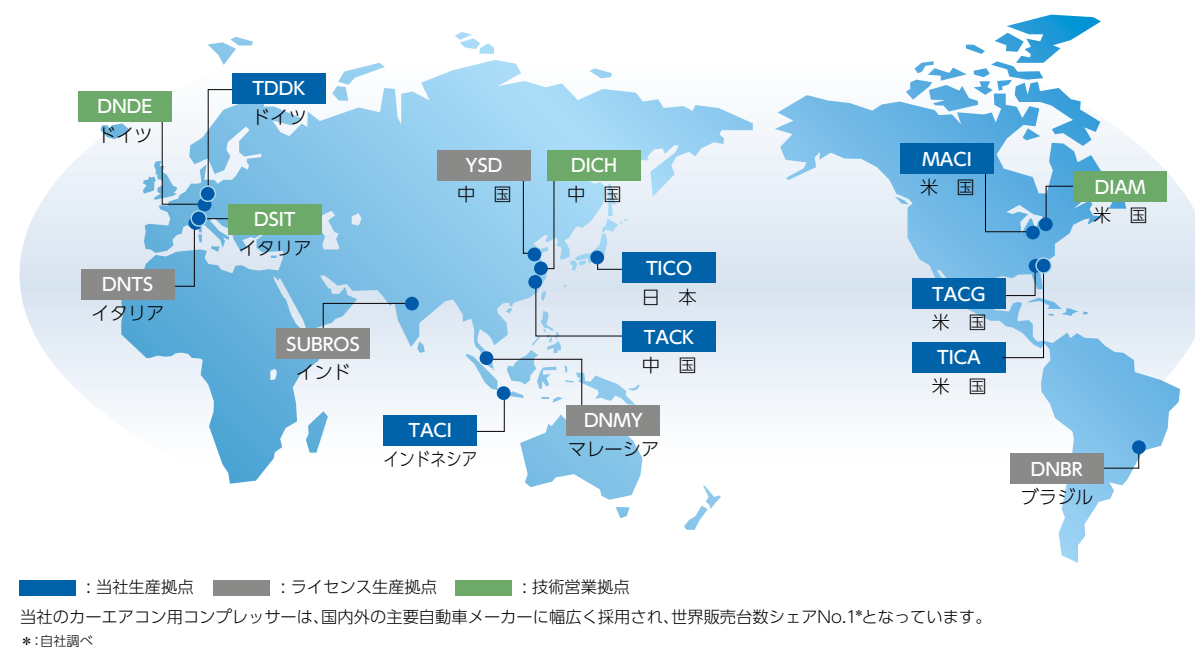


開発風景



実験風景

カーエアコン用コンプレッサーのグローバル拠点



カーエレクトロニクス

2011年度の事業の概況

当社のカーエレクトロニクス商品は、トヨタ自動車(株)のプリウスをはじめとするハイブリッド車(HV)の台数増や、アクアやプリウスPHVなどの発売に伴う搭載車種の増加により、売上げが拡大しました。

電動車両での当社の実績と役割が拡大

当社は、HV、プラグインハイブリッド車(PHV)、電気自動車(EV)など電動車両用電子部品・機器の開発・生産を行っています。

〔補機系商品〕

DC-DCコンバーターは、HV用バッテリーの高電圧をライト、ワイパー、ホーンなど補機用の低電圧へ変換する商品です。初代プリウスへの搭載以来、3代目プリウスやアクアへと商品の小型・軽量化に継続的に取り組み、2012年2月末には累計生産台数400万台を達成しました。



プリウス搭載DC-DCコンバーター

DC-ACインバーターは、車両で家電製品を使用するための商品で、震災を契機に非常用電源としての評価が高まっています。

車載充電器については、1990年代のEV用充電器や1500W AC電源における技術・ノウハウをもとに開発・提案を重ね、2012年1月に市販化されたプリウスPHVに採用されました。

〔走行系商品〕

当社は、独自開発の直冷方式で、冷却性能を大幅に高めた冷却器を開発し、3代目プリウス用PCU*から走行系基幹部品(ユニット)に参入しました。

2010年1月、全社レベルでの電動化を推進する組織として、電動化プロジェクトを立ち上げ、走行系ユニット・システムへの取り組みを強化してきました。

このプロジェクトでの開発品の第一弾として、2011年11月に走行ユニット「EV用パワートレインユニット」を発表しました。この商品は、インバーター、モーター、減速機などの機能部品を一体設計し、小型・軽量化を実現しています。

*:Power Control Unit (電力制御ユニット)



EV用パワートレインユニット

〔充電インフラ〕

当社は、PHVおよびEV向けに、日東工業(株)との共同開発による公共用充電スタンドを2009年7月に発売しました。また、プリウスPHVの市販化に合わせて、一般家庭の車庫などへの設置に適した、シンプルで使いやすい機能・デザインの家庭用充電装置を、2011年に共同開発しました。



家庭用充電装置

開発を加速し、低炭素社会へ貢献

今後、低燃費で環境にやさしい商品へのニーズがますます高まり、自動車のみならず、産業車両など非自動車分野においても、電動化の流れは一層加速すると考えられます。また、PHVやEVの普及に向けた充電インフラの重要性も高まっていきます。

このように大きく成長する電動車両市場において、当社は補機系分野に加え、走行系ユニット・システム分野や充電インフラ分野における技術開発・商品開発を加速し、低炭素社会への貢献をめざします。

物流 Logistics

物流センター運営や、陸上運送サービス、集配金・売上金管理サービス、情報保管管理サービスなどの高度で効率的なサービスで、お客様の多様なニーズにお応えしています。



2011年度の事業の概況

物流事業を取り巻く環境は、震災や洪水の影響がありましたが、比較的早く回復し、総じて物流量は堅調に推移しました。そのなかで当社は、新規案件の開拓や収益改善による事業体質の強化に継続して取り組みましたが、物流受託事業を行う子会社であった(株)通販物流サービスの保有株式をすべて売却したことなどにより、売上高は前期を148億円(14%)下回る929億円となりました。

物流センターの企画・設計・運営

当分野では、幅広い業界・お客様の物流センター運営を行っています。2011年度は、既存物流センターの運営において、震災や洪水の影響は少なく、物流量が比較的堅調に推移するなか、トヨタ生産方式の考え方をもとに物流現場での原価改善活動を継続し、収益体質のさらなる強化に努めました。

また、お客様の物流サプライチェーン全体での最適化をめざした提案を推進するなど、積極的な営業活動を継続しました。その結果、新たに2案件の物流センター運営受託に結びつけることができました。

そのほか、お客様のニーズに対応した物流コンサルティング活動を引き続き積極的に実施することで、新たな物流センター運営の受託や物流機器の需要の掘り起こしに努めています。

陸上運送サービス

陸上運送を手がける大興運輸グループは、多数の自動車部品メーカーから運送を受託し、納入先別に集約した上で、自動車メーカーに「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」お届けしています。

2011年度は、主要なお客様である自動車業界が震災や洪水の影響を受けましたが、早期に生産水準が回復したことに加え、エコカー需要が増大したため、自動車関連部品の輸送量は堅調に推移しました。

こうしたなか、当分野では効率的な貨物運送の実施など収益改善活動を継続するとともに、安全や環境に配慮した活動も強力に推進しました。

今後も、事業拡大に向けて新たなお客様の開拓と獲得に向けた営業活動のさらなる強化を進めていきます。



大興運輸グループの陸上運送サービス

■ 物流ロッカーの実証実験開始

当社では、新たな事業領域をめざし、物流ロッカーの事業性の検証や商品開発を以前から進めてきました。これまでの取り組みにより、利用者が特定でき、セキュリティ性能が高い、「荷物無人受け渡し」機能付きロッカーを新たに開発し、大学や交通機関と共同で、実証実験を開始しました。

この実験を通じて、利用者にとってのサービス性を検証し、今後の開発につなげていきます。

近年、インターネット通販の利用がますます増加しており、ユーザーの利便性向上と物流効率化が求められています。今後も荷物受け渡しの中継点としての高い機能を活かし、宅配業者、商業施設、企業、戸建住宅向けなどに事業展開し、配送に関わる社会のインフラ整備に貢献していきます。

【 集配金・売上金管理や情報保管管理などの高付加価値サービス 】

■ 集配金・売上金管理サービス

(株)アサヒセキュリティは、小売業・サービス業を中心とした約2,450社のお客様に、24時間365日のサポート体制で事業を行っています。

お客様ごとのニーズに合わせた集配金サービスに加え、現金以外の商品券などの管理、お客様の店舗での出納業務全体の代行などにも取り組み、トータルでのサービス提供をめざしています。

全国ネットワーク・サポート体制を強化するため、2011



(株)アサヒセキュリティの集配金・売上金管理サービス

年度には集配金センターを沖縄県と鹿児島県に新設し、名古屋市のセンターを移転拡張しました。また、北海道、愛媛県、長野県、栃木県に配送拠点を新設しました。

お客様に安全・安心なサービスを提供するために、全国の拠点で、独自の訓練に加え、警察と連携した有事対応訓練なども実施しています。

■ 情報保管管理・集配サービス

(株)ワンビシアーカイズは、金融機関などの大企業や、官公庁をはじめとする約4,000社の企業・団体の情報資産の安全確保と効率的な活用をサポートしています。堅固なセキュリティ体制のもと、重要な情報資産の保管・活用、機密抹消など、情報のライフサイクルすべてをカバーした総合的なサービスを提供しています。

紙文書の電子化などのアウトソーシング業務は、お客様の業務プロセスに深く関わることで、付加価値の高いサービスを提供しています。

2011年3月の震災後に行った企業の情報資産管理に関する実態調査に基づき、同年11月、東北第1センター（宮城県名取市）を開設しました。12月に、その調査結果を公表しました。

震災を機に、BCP（事業継続計画）の観点から、情報資産のバックアップの必要性が見直されており、当社ではバックアップデータの遠隔地保管サービスなど、さらなる品質の向上に努めています。

海外では、中国・昆山市に設立した現地法人で情報資産管理サービスを本格的に開始しました。日本で蓄積した経験・ノウハウを活かし、中国で事業を行う企業・団体の情報資産の安全確保と効率的な活用をサポートするなど、成長市場の取り込みに力を注いでいます。



(株)ワンビシアーカイズの東北第1センター

繊維機械 Textile Machinery

社祖・豊田佐吉のモノづくりに対しての理念に基づき、世界販売台数シェアNo.1*のエアジェット織機をはじめ、リング精紡機、粗紡機などのラインナップで、幅広いニーズにお応えしています。



*：1997年以来15年連続で世界No.1
2011年 ITMF統計 (International Textile Manufacturers Federation)

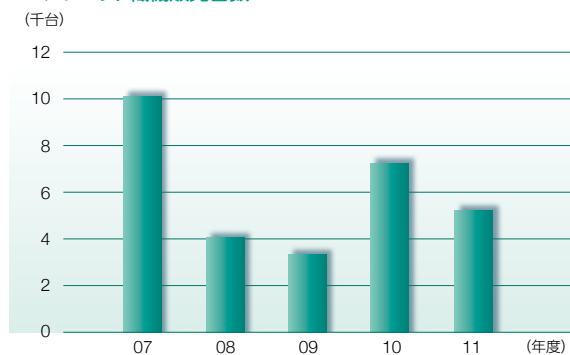
2011年度の事業の概況

繊維機械におきましては、エアジェット織機が中国向けで減少したことにより、販売台数は、2.0千台(28%)下回る5.2千台となりました。

その結果、売上高は前期を42億円(10%)下回る385億円となりました。

なお、事業をさらに強化するため、2012年2月にウースターテクノロジーズ(株)(ウースター社)を子会社化しました。

エアジェット織機販売台数



さらなる商品力強化の取り組み

織機分野では、2011年5月、主力のエアジェット織機において、複雑な織柄を可能とする電子開口装置を改良しました。この商品では、水冷式モーターを独自に開発し、モーターの小型化や電気消費量の低減を実現しました。また、よこ糸を飛ばす空気消費量を低減するために、新型

よこ糸挿入システムなどの装置も投入しています。

紡機分野では、2011年9月、新型高速リング精紡機RX300を発売しました。この商品は、新型高効率モーターや新型ニューマ装置の採用により、優れた省エネ性能を実現しています。

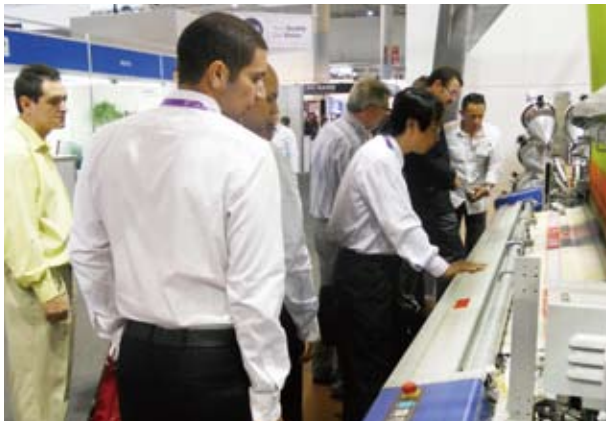


RX300 高速リング精紡機



ITMA 2011に出展

2011年9月、スペインのバルセロナで、世界最大の繊維機械展示会「ITMA2011」が開催されました。当社は、新型電子開口装置や新型よこ糸挿入システムなど省エネ装置を搭載したエアジェット織機JAT710と、新型高速リング精紡機RX300を実演展示しました。インドをはじめブラジル、パキスタンなど、さまざまな国のお客様に対し、高い技術力と環境対応への取り組みをアピールしました。



ITMA2011での当社ブース

ウースター社との提携による商品力の強化

当社は、原綿・糸の格付機器と品質測定機器の開発・生産・販売を行っているスイスのウースター社を2012年2月に子会社化しました。同社は、50年以上に渡って蓄積した世界中の糸の品質を規格化し、それに基づいて開発した機器で測定した糸品質が、世界基準となっているほか、高度なセンサー技術などを有しています。これら世界トップレベルの技術を、当社のエアジェット織機などに活かすことで、革新的な商品の開発をめざします。



綿花格付機器



紡績糸品質の測定機器



ウースター社